



負けず嫌い根性に火をつけてくれた先生

高校1年の夏ごろに、所属していた部活動を退部したいと担任の先生に相談したら「部活か勉強、どちらかは頑張れ。部活をやめるなら国立大目指して勉強頑張れ」と言われました。結局その部活は辞め、美術部に所属しました。活動の頻度が高くなく、時間があるのでテスト勉強をしていたら成績が伸び始めました。特に担任の先生の担当教科が数学で、数学は頑張りました。2年進学時に特別進学クラスに振り分けられるタイミングがあり、希望しました。結果として特進クラスに入れなかったことが悔しく、2年から本格的に勉強を頑張りました。地理と数学の成績が上がっていき、3年からは特進クラスに入ることになりました。

メカニズムを解明する楽しみを知る

大学進学時は、工学というよりは社会と繋がりを持ちやすいようなイメージで都市デザイン学部を志望しました。3学科どれも似たことをやと思っていた。合格後に材料デザイン工学科は工学系と知りました(笑)。入学後に偶然きっかけがあり神経系のことをもっと知りたいと思うようになりました。本を読み、時にはYouTubeの動画などを頼って勉強しました。一見難しそうな分野だと思っていたが、ちょっと突き詰めると理解ができました。自力でわからないことを解明しようとするプロセスを経て、他の分野でも突き詰めて研究していけそうだなという手ごたえを感じました。

希望の所属研究室を熱意で勝ち取る

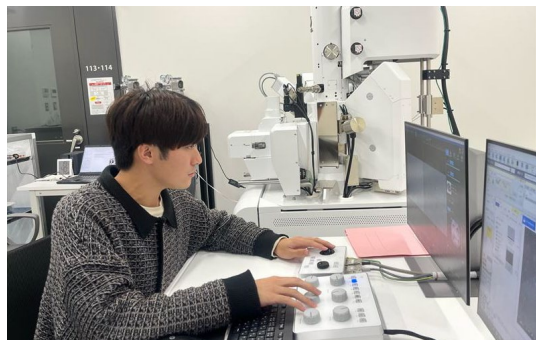
3年次から専門的な内容に入っていく、金属について学ぶことに熱中していきました。授業でTA(ティーチングアシスタント)の修士の先輩から、石本卓也先生の軽量材料工学研究室で生体材料を扱っていると聞きました。やってみたいことと繋がると感じました。実験して自分で合金を作り解析する、という一連の流れを研究室で完結できる点も魅力的でした。材料デザイン工学科の研究室配属は、学生同士の話し合いで決まります。熱量で研究室への配属権利を勝ち取りました。

研究に没頭し、学会で受賞

研究室配属からは、1日中いるくらいずっと研究室にいます。気づいたら朝になっていることもあります(笑)かつてにここまで熱中したものはないというくらい、今は研究に夢中です。最大で5つのテーマを同時進行で研究している時期もありました。

2025年10月に新潟で開催された日本チタン学会で「チタン合金の新たな強化方法」を発表しました。チタン合金の強度を上げる方法というテーマで、今までに検証されていない方法を取り、珍しい金属組織が出たことを評価してもらえました。学生部門の最優秀ポスター賞を受賞することができました。

金属は一見、銀色の物体です。突き詰めていくと結晶粒があり、構造を知ることが出来ます。その過程が楽しく、博士課程に進んで研究を続けていきたいと考えています。



お世話になった高校の先生へ

担任の先生にはとても感謝しています。授業や日常会話から感じられる熱量が、自分の中の「探求欲」を引き上げてくれました。あの時、先生が担任になったことが自分の人生の方向性を決めてくれたように感じています。ありがとうございます。